

覺

總醫師共家業心懸候儀者勿論ニ候得共、生得之才不才も有之、生質より何程出精仕候而も勝れ候ものは容易に出來難致、依之前々より世上手廣療治致し、醫業勝れ候ものは、町醫師又は陪臣より、其時々被召出候、然ル處其ものは、拔群に候而も、其子は未熟之者多被召出、間も無之病死等に而、未熟之忤家督被下候而も、往々御用立候ものは稀之儀ニ有之候間、此以後被召出候者は、一代切ニ御宛行被下候、其者一代御奉公筋も格別ニ候はゞ、其品ニ寄忤江御扶持方被下、若被召出候而、間も無之病死之節は、直に御宛行上り候間、右之趣相心得、向後醫師推舉致候節は、左之通可被心得候。

一町醫師又は陪臣ニ而も、療治宜仕候醫師有之節、先御目見之儀相願御目見被仰付候以後、御扶持方被下、奥御用被仰付候事、

但若年寄支配ニ候事

右之通被仰付候上ニ而、御番をも被仰付候ニ付、奥醫師並之通、御切米貳百俵一生之内被下置、尤御番料も可被下候事品ニより被召出候もの、様子次第、御扶持方被下、小普請入も可被仰付候事、右之通被仰出候間、被得其意、心得違無之様可被取計候、

八月

〔嘉永撰要類集三十八末〇弘化四年二〕五月十五日、阿部伊勢守殿より御直上ル、

伊勢守殿

信州表、醫者無數、藥種拂底之儀ニ付奉伺候書付、

遠山左衛門尉

今度、信州表、大地震之上、出火に而、惟我致し、疵付又は野宿致し候ニ付、雨露之爲メニ、病發致し候